

不正事件終焉もまた「内部告発」東千葉MC

またまた内部告発文の登場である。千葉県東金市にある東千葉メディカルセンター（MC）だ。東金市と隣の九十九里町が出資した地方独立行政法人「東金九十九里地域医療センター」が14年に開業した地域中核病院である。市街地から遠く離れた工業団地内、それも一番奥の病院で、周囲からは驚が鳴き、ホトトギスのさえずりが聞こえるという閑静な立地にある。

この閑静な病院が騒然となったのは、4年前に数人の市議に送られてきた内部告発文書だった。中身は病院内ではお手盛りで給料を増額したり、随意契約で医療機器を購入してはキックバックさせて職員が懐を肥やしたりしているという内容だ。市議会の病院評価委員の清宮利男議員が問題視し、究明が開始されると、出るわ出るわ病院内で背任、横領、お手盛り昇給が跋扈していた。中心人物の久米忠之前総務課長ら4人と納入業

者2社の社長が逮捕、起訴され、今春までに全員に有罪判決が下った。これで不正事件はケリがついたと思われた矢先の内部告発だ。

内部告発文書では、病院敷地内の寮に住む者が東京から通勤しているとして通勤費を受け取っているし、降格、異動した人物の給与は以前のままなど、未だ病院内の不正には手をつけられずにいる……と訴えている。

「補助金なければ赤字に」

ともかく、今回の内部告発文は26枚に加え、それを証明する通勤状況や給与明細などの内部資料16枚を付け加えたものだ。ご丁寧に市議会での是非、質問すべき事項も列挙している。

驚いたのは、東金市の議員たちだ。何しろ、22年4月、それまで理事長と病院トップを兼任していた増田政久センター長の任期満了

を機に理事長と病院管理者である

センター長を分離。理事長に元千葉ろうさい病院長の河野陽一氏を、センター長に千葉大大学院の岩立康男教授を迎え、不正問題の是正に当たってきたはずだったからだ。東金市は東千葉MCに内部告発が事実であるかどうか調査のうえ、報告するように命じる一方、市議会の病院問題検証特別委員会を再開。解明に当たるといふ。

東金市の清宮市議が説明する。「東千葉MCは新型コロナウイルス関連補助金で黒字が続きましたが、コロナ補助金がなくなると約10億円の赤字になると報告されている。そんな最中にまだ不正が是正されていないというのは大問題です」

周知のように、東千葉MCの収賄、背任事件は20年10月に内部告発があり、東金市議会で問題視したことから公になった。第三者調査委員会が設けられて調査した結



いつになったら生まれ変わる？

「千葉大学より派遣される医師は千葉大時代と同等の給与が支給されることになっています。しかし、

時間外手当やボーナスの計算で本来の金額より少なく支給していた。不審に思った医師が千葉大の事務局長に協力してもらい確認した結果、減給されていることが判明した。総務課は昨年4月分から給与計算方法が更新されるとしたが、説明も減額されていた期間の損害補填もされていない……」

事件発覚後、東千葉MCは不正防止に取り組んでいたはずだったが、ところが、内部告発文書は「新体制の下で医療機器の購買や委託契約は改善が進んだが、事務局が対応している給与の不正問題は何ら是正されていない」と訴えている。

「不正発覚当初、（東千葉）MCは不適切な給与の返納予定額は1200万円と提示していた。東金市長は令和5（23）年9月に不当な給与の是正は完了している、と答弁しています。しかし、今年1月MC内の職員説明会では不当な給与の是正は解決に時間がかかると相反する説明だった。1200万円という金額自体、被害額の一部ではないが、是正されないため被害額は現在も増加している……」

この内部告発文書を受けて東金市の病院問題検証特別委員会は東千葉MCの調査報告を受けたという。その報告は「チェックが不十分でした」と内部告発の内容をほぼ認めるものだったそうだ。

ある議員はこう嘆く。「病院を喰いものにする連中がまだ残っているようだ。前理事長時代は不正の究明に消極的だったが、今度という今度は不当な給与を受け取っていた者を病院自身が告訴するように市長から東千葉MCに命じるしかない」

内部告発があったのは、良心的な人物がいるという証差だが、当分、ゴタゴタは続きそうだ。

告発である。告発の中身は少々、細かいのだが、「贈収賄事件で現職と元職員の4人が逮捕されたことで事件は一応の決着が着きましたが、給与問題はまったく解決されておらず、再び問題提起しなければ、MCの不正問題は解決しない」と理由を書いている。ともかく、ざっとその一部を紹介する。

最初に挙げているのは、コロナ補助金を利用したエクモ購入で収賄罪になった技士長で、「入社後1年間は車通勤していたが、2年目以降は病院脇の職員宿舎に居住し徒歩1分で通勤していたにもかかわらず、通勤手当は住所と届け出していた（都内の）国立病院機構東京医療センターの職員宿舎からの通勤手当が支給されていた……」

みみっちい、なんて言っつてはいけない。逮捕・懲戒解雇されるまでの病院の損害額は、何と200万円に上る見込みだという。技士長ばかりではない。自家用車で通勤していた副技師長も公共交通機関を利用していただけ通勤費を受領しているという。

以前、第三者委員会の報告書は東千葉MCでは人事評価制度がな

く、勤務成績の判定も行わず、昇格や昇給が行われていたと指摘していたが、内部告発文書ではその実態も記している。例えば、財務係長から副課長兼財務係長に昇任した人物は4級28号俸（31万8400円）から一足飛びに5級80号俸（39万7500円）に昇給した。不正発覚後、是正されたというものの、実情は報酬が減額、昇任は5級のままで是正されていない、と指摘している。

お手盛りはこれだけにとどまらない。「職員は退勤時にタイムカードを打刻せず退勤し、総務課内の共犯者による偽装入力が行われ、組織的な時間外手当を架空請求している」とも記している。

「コロナ手当の不正支給」の項目では、こんなことも記している。「最初の告発文書で指摘されたコロナ患者受け入れで、駐車場での窓越しに案内した職員に1回あたり1万円の手当を支給していたことが指摘されたが、こちらは未返納と聞いている」

もちろんお手盛りだけではない。「不当な給与の減額支給」についても告発している。

誰がカネを「喰い尽くした」のか

千葉県東金市にある「東千葉メディカルセンター」が不正問題で大揺れに揺れている。同メディカルセンターは、糖尿病治療で知られた旧県立東金病院の廃止に伴い、後継として東金市と隣の九十九里町が出資した地方独立行政法人東金九十九里地域医療センターが14年に開業した地域中核病院。市街から離れた工業団地の奥にあり、バスかタクシーでないと通院できないという少々不便な立地だが、広大な敷地に白亜の地上6階建ての立派な病院である。

ところが、このメディカルセンターの事務部門で採用した職員の履歴を改竄したり、10数人の職員がお手盛りで給与を増やしたりといった不正がまかり通っていたのだ。同メディカルセンターは開院以来、赤字続きで、2年前に県から30億円の支援金を受けている。そんな最中に不正が発覚したのである。創立者の東金市と九十九里

町議会は蜂の巣を突ついたような騒ぎ。特別委員会を設置し、両市町は真相解明と改善を求めて病院に是正命令を出したが、その回答に両市町の議会は「曖昧だ」と満足せず、弁護士4人からなる第三者調査委員会の調査を受け入れさせた。その一方、東金市の清宮利男市議と市民3人が東金警察署に私文書偽造、業務上横領で刑事告発。市民からも「病院を喰い物にした」という声も上がっている。

赤字のほとんどが不正

騒ぎの発端は昨年10月中旬にネットに流れた内部告発である。続いて清宮議員たち数名の議員に同様の内容の内部告発文書が送られてきたという。

清宮東金市議が話す。

「ネットではほとんど注目されなかったことで、私のところに郵送されてきたようです。私がメディ



患者のためにも真相究明が待たれる

むろん、出資者である東金市と九十九里町の議会が騒然となったのは当然だ。真相を求めて特別委員会を設置する一方、メディカルセンターに是正命令を発出したのだが、その回答の内容が曖昧だともまたまた紛糾。

清宮市議が続ける。

「お手盛りで昇給したのは13人で、昨年1月から11月までで総額1236万円になり、うち11人が返還を申し出ているという。その前も行われていたのではないかと、これから精査すると答える。職員の履歴改竄を行ったのは2人だという。では誰が指示したのか聞くと、答えは曖昧。独立行政法人法に違反する随意契約の問題では昨年1月に急死した元事務部長が行った

というので、元事務部長が亡くなった後も随意契約をしていると指摘すると、すべてが事務部長の行為だとは言っていない、と答える始末です」

メディカルセンターでは回答書を作成するために徹夜でパルスメーターに番号をふって数を数えたり、作成しなかった書類を慌ててつくったりしていたらしい。一方で、知的障害のある職員を日曜出勤させて書類をシュレッダーにかけさせたというパワハラ疑惑の話もあるようだ。何となく、どこかの国の国会答弁に似ているようだ。「過去の書類をつくらうとしても無理です。最近のことは覚えていても数年前のことはわからなくな

カルセンターの評価委員をしていからでしょう。内部告発は分厚く13枚ほどが説明文書で、残る40数枚が資料でした。個人名と役職は黒塗りでしたが、メディカルセンターでは事務方の職員がお手盛りで給与を加算していることや独立行政法人法で160万円以上の発注は入札をしなければならぬのにほとんどが随意契約で済み、それも以前よりも高値の契約をしているといった内容が細かく書かれています。真つ先にこの資料が本物かどうか病院に問い合わせると、すべて原本のコピーだという。メディカルセンターは設立以来、毎年5億円ほどの赤字で、一昨年には県から30億円の支援を受けている。事実なら市民、県民の血税を喰い物にしていることになる」

何しろ、内部告発の自身が一般社会では想像できないほどすごいのだ。ざっと挙げれば、事務職員たちがお手盛りで給与を加算して

っている。そもそもメディカルセンターでは発注するときに起案書をつくらずに随意契約している。契約書がないのもあり、滅茶苦茶ですよ（清宮市議）

もちろん、東金市議会も九十九里町議会もメディカルセンターの回答書に満足するはずもなく、両市町が指名した4人の弁護士を調査委員とする第三者調査委員会による調査をメディカルセンターに受け入れさせた。

加えて、清宮市議と3人の市民が履歴書改竄とお手盛り昇給問題を刑事告発したという経緯だ。「履歴改竄問題ではメディカルセンターはすでに関わった2人の総務課職員を懲戒処分し、お手盛り昇給問題では13人のうち、11人が返還を申し出て、自ら不正事実を認めているんです。この2件の不正を突破口に警察の手で真相を解明してほしい（清宮議員）」

この最中、メディカルセンターは「職員1人を懲戒解雇した」と発表した。地元の記者が説明する。「メディカルセンターは氏名を発表していませんが、解雇したのは前総務課長です。彼は独立行政法

いる、県から派遣された職員には勝手に月27万円の「調整額」を上乗せしている、昨年10月に採用したボーラー管理担当職員には勤務前に1ヵ月分の給与を支給していた、新型コロナウイルス対策として、わずか1台の車を誘導しただけの職員に1万円を支給している。総務課職員募集で一旦は不合格だった女性がその後採用され、しかも、人事職員が経歴を改竄し、その経歴を基に給与を加算している。さらに物品購入や委託事業では入札を行ったのはたったの1件だけで、それ以外はすべて以前よりも高値で随意契約していると指摘している。例えば、診療報酬明細書の作成委託費は月1582万円だったが、随意契約に切り替えて2813万円に増加し、診療材料の在庫配送管理（SPD）の業務委託費は月190万円だったのに随意契約で2社に510万円が発注。警備・清掃業務は随意契約に

人の理事長を兼任する増田政久メディカルセンターのセンター長が4年前に就任したとき「病院に全体を取り仕切る人材がいらない」と連れてきた人物で、一連の不正の中心人物と見做されている」

数々の不正が発覚するや、体調を崩したと休職。その後、連絡が取れなくなっているという。

「前総務課長は履歴書改竄やお手盛り昇給、随意契約などを主導したほか、増田理事長の報酬も増やしたらしいと噂されている。増田理事長は心臓血管外科医として知られた人ですが、前総務課長を連れてきたうえ、不正を承認していただきますから責任を免れようもない」

第三者調査委員会の調査結果が出るのは7月末の見込みで、警察の捜査も本格化するのその頃と見られている。だが、巷では、かつて千葉県銚子市で閉鎖と再開を繰り返した銚子市立病院騒動で、再開を謳って当選した市長が連れてきた人物が「銚子市立病院再建機構」をつくり、多額の税金を喰い尽した事件が起こったが、東千葉メディカルセンターもそれに似ているという声も上がっている。

病院を食い物にした不正事件の後始末

「ドクターX」のロケ地「東千葉メディカルセンター」の惨状

「歯にものがかまったような感じだ」と表現する人もいる。千葉県東金市と九十九里町が設立した地方独立行政法人が運営する「東千葉メディカルセンター」の不正事件の後始末だ。

本誌21年7月15日号で報じたが、同メディカルセンターの不祥事は詳細な内部告発がインターネット上に登場し、さらに東金市の市議会議員数人に送られたことに始まる。何しろ内部告発の内容が凄いのだ。同メディカルセンターの事務部門では仲間内で給与をお手盛りで増額したり、途中採用した女性職員には履歴書を改竄、さらに医療機器や物品購入、委託業務では勝手に随意契約に切り替えて高値で発注している……というのである。

驚いた市議会が真実かどうか同メディカルセンターに問い合わせると、「真実だ」という回答に、設立者の東金市と九十九里町の議

者がてんやわんやの大騒ぎになったのは言うまでもない。市議会にメディカルセンターの担当者と呼んで質したりする一方、是正命令を発したものの、その回答が曖昧だったため、両市町の議会はさらに紛糾。弁護士で構成する第三者委員会による調査を依頼した。すると、「内部告発の内容はすべて事実である」という報告書が提出され、メディカルセンター理事長兼センター長（病院長）と東金市長、副市長の報酬減額処分を発表した。これで一件落着なのだろうか――。

年間5億円の損失

「新型コロナウイルス禍で病院機能を混乱させないため、と言っています。メディカルセンターも東金市も減給処分で一連の不正事件に幕を引きたいということなのでしょう」というのは、地元の記事だ。

東金市が下した処分は、不正事件の舞台である東千葉メディカルセンターの増田政久理事長を6ヵ月間減給10分の1、設立団体の監督責任として鹿間陸郎市長を減給10分の1（3ヵ月）、副市長を減給10分の1（1ヵ月）である。メディカルセンター内では、不正の中心人物とされる前総務課長が早々に懲戒解雇されたのを除き、お手持りで報酬増額し、事件発覚後も返還しなかった職員2人を減給10分の1（1ヵ月）と1人を戒告処分にしただけだった。

「不正事件にほとんど関係のない副市長が減給処分になったのは少々、気の毒ですが、立场上、仕方がないのでしょう。しかし、全容が解明されたわけではない。例えば、三重大学の元教授は医療機器メーカーから200万円を受け取っていたとして収賄罪に問われている。一方、メディカルセンターで県から派遣された前事務部長

は毎月27万円を上乗せされ、とくに200万円を超えているにもかかわらず、県に戻されただけで終わっている。彼は発覚時に『ずいぶん給与が多いと思った』と語っていたが、報酬規定がある公務員ですから、最初からおかしいと感じたはずだ（記者）

白亜の6階建ての同メディカルセンターはロビーが吹き抜けになっているなど見栄えがよく、テレビドラマの『白い巨塔』や『ブラックペアン』『ドクターX』などのロケ地となったことでマニアの間では有名な病院だが、不正事件はドラマ以上かもしれない。ともかく、ざっと事件の概要をおさらいすれば、増田理事長が連れてきた前総務課長が事務部門を牛耳り、県から派遣された前事務部長に月額27万円を報酬に上乗せしたのを皮切りに、仲間と見られる13人にお手盛りで給与を上乗せし、理事長の知人といわれる女性の採用で

1は年間5億円にも上る損失を出しているとも告発している。増田理事長が採用した総務課長が不正の中心人物ということになる。

実際、第三者委員会の調査報告書は不正に関係した職員、関連する部署の職員たち約30人に聴取して真相をまとめたものだが、告発文書の中身をほぼ事実と認定している。そのうえで前総務課長を「不正の根源」と断定、「背任罪に相当する」と指摘。さらに増田理事長に対して前総務課長を規定の採用試験をせずに採用し、その後の不正を見逃ごしてきたと指摘している。もともと、事件の中心人物とされる前総務課長にはヒアリングを拒否され、採用された経緯や、なぜ不正を行ったのかなど、肝心の部分が少々、欠けている。

「やはり、調査権を持たない第三者委員会の調査では限界がある。警察の手が入らなければ真相は明らかになりそうもない」というのは、ある関係者だ。

「東金市議会では議員の質問に対してメディカルセンターの新任の事業部長は『顧問弁護士とも相談して規定外の昇給・昇格に関与し

た職員、不正な医事業務の委託に関与した職員、元職員など6人を横領容疑で告訴する準備を進めている」と答弁しています。しかし、1ヵ月以上経っても告訴していない。不正の中心人物の前総務課長は「告訴したら洗いざらい喋ってやる」と開き直っているようで、メディカルセンター側は増田理事長との関係など都合の悪いことが表面化することを恐れてビビっているようです。

実際、メディカルセンターは「すべて弁護士事務所に任せている」と丸投げし、弁護士事務所側という「守秘義務があり、一切言えない」としか答えない。どうやらすでに前総務課長は懲戒解雇処分され、設立者の東金市長とメディカルセンターの理事長に対する処分をした以上、騒ぎを大きくしたくないという意思が働いているかのようだ。

そんな煮え切らない態度のせいのか、「事件の裏側には公立病院を食い物にする輩がいるのではないか」という怪情報も囁かれています。と

病院再開を公約に掲げて当選した市長が連れてきた人物が「銚子市立病院再生機構」なる医療法人をつくり、マンションを購入したり、高額報酬に引き上げたりして、病院を食い物にした事件が起こったことがある。この事件に関係した人物が東千葉メディカルセンターの不正事件の裏にいるのではないかと、というのだ。むしろ、真偽は不明だが、もし、自治体立病院を狙う闇のグループが存在することになれば、テレビドラマ以上のスリル溢れる物語になりそうなのだ。だが、司直の手が入らなければ不正事件の真相は明らかになりそうもない。

東金市議会は市の下した処分後、「病院問題検証特別委員会」を設置した。同特別委員会は主にメディカルセンターが市の是正命令をきちんと実行するか監視するという。結局、大山鳴動した病院不正事件は幕引きになりそうな雲行きだが、それでも、1人の市議が内部告発文書に目を止め、真実かどうか追及した結果、病院を食い物にした不正を止めさせたことは特筆される。



まじめな職員の士気は下がる一方